

関係各位

愛知県農業総合試験場長  
(公印省略)

病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和4年度病害虫発生予報第5号(8月)

令和4年度病害虫発生予察注意報第4号

担当 環境基盤研究部病害虫防除室

電話 0561-62-0085

内線 471

ファックス 0561-63-7820

## 令和4年度病害虫発生予報第5号(8月)

令和4年8月2日

愛知県

### 普通作物

#### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	やや多い	県全域	7月下旬の葉いもちの発生量は やや多い	+
	紋枯病	やや多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い 8月の降水量はほぼ平年並	+ ±
	白葉枯病	やや多い 平年並	尾張地域	7月下旬の発生量はやや多い	+
			他地域	7月下旬の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ニカメイガ	やや多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数は多い	+ +
	セジロウンカ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
トビイロウンカ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±	

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	斑点米 カメムシ類	多い	県全域	7月下旬の本田での発生量が多い 7月下旬の水田畦畔での発生量は は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	＋ ± ±
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	イチモンジセセリ (イネツトムシ)	やや少ない	県全域	7月下旬の被害株率はやや少ない	－
	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない 予察灯における誘殺数は平年並	－ ±
	コブノメイガ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
ダイズ	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 8月の気温は高い	± ＋
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 8月の気温は高い	± ＋

#### ・防除対策

##### 〔イネ・いもち病〕

本日発表の「イネいもち病情報第4号」を参照してください。

##### 〔イネ・紋枯病〕

本日発表の「イネ紋枯病情報第1号」を参照してください。

##### 〔イネ・白葉枯病〕

7月下旬に県内52地点155ほ場で実施した巡回調査において、イネ白葉枯病の発病株率は0.37%（平年0.09%、前年0.62%）と過去10年間と比較して2番目に多い状況です。特に尾張地域の一部ほ場で発生が多く確認されています。発生が多いほ場ではオリゼメート粒剤、ルーチン粒剤、ブイゲット粒剤などで防除しましょう。その他対策等について、7月1日発表の「イネ白葉枯病情報第1号」を参照してください。

##### 〔イネ・ニカメイガ〕

7月下旬に県内52地点155ほ場で実施した巡回調査において、ニカメイガの被害株率は1.20%（平年0.49%、前年3.68%）と過去10年間と比較して2番目に多い状況です。また、弥富市に設置している予察灯において、7月第1半旬から第4半旬にかけて誘殺数が多い状況です。発生が多いほ場では、パダンSG水溶剤、ディアナSCなどで防除しましょう。

##### 〔イネ・斑点米カメムシ類〕

本日発表の「斑点米カメムシ類情報第2号」及び7月15日発表の「令和4年度病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。

##### 〔ダイズ・ハスモンヨトウ〕

本日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号」を参照してください。

##### 〔ダイズ・オオタバコガ〕

本日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参照してください。

・留意事項

トビイロウンカは、愛知県内では7月下旬までの本田調査において発生を確認しておらず、予察灯においても誘殺されていません。

トビイロウンカの防除適期は、各世代の幼虫発生期です。日本植物防疫協会提供のウンカ飛来予測システムによると、本年の本県への飛来に適した気象条件は 6/15、6/22、6/25（2回）の計4回ありました\*注。それらの日に本県にトビイロウンカが飛来していると仮定し、第二世代幼虫の発生予測時期について有効積算温度をもとに計算しました（表1）。ほ場におけるトビイロウンカの発生動向、移植時期及び育苗箱施薬による防除の有無などを考慮し、表1を参考に防除を検討してください。

\*注 ウンカ飛来解析については、データ提供元のシステムに不具合が生じたため、6月25日夕方以降の解析データはありません。

表1 有効積算温度をもとに計算したトビイロウンカ幼虫の発生予測時期（8月2日計算）

飛来予測日		名古屋	岡崎	新城	豊橋
6月15日 飛来群	第二世代幼虫	8月9日	8月11日	8月13日	8月9日
6月22日 飛来群	第二世代幼虫	8月13日	8月15日	8月16日	8月14日
6月25日 飛来群	第二世代幼虫	8月17日	8月18日	8月19日	8月17日

各地のアメダス過去30年間の平均気温から予測（豊橋は過去16年間）。

8月1日までの実測気温を用いて、7月15日発表の「ウンカ類情報第2号」の表2を再計算し、更新しました。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	黒点病	平年並	県全域	5月の枯枝の孢子形成量は平年並 8月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ミカンハダニ	平年並	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない 8月の気温は高い	- +
	チャノキイロアザミウマ	やや少ない	県全域	7月下旬のイヌマキにおける発生量は少ない 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	- ±
ナシ	うどんこ病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	やや多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い 8月の気温は高い	+ +
	ナシヒメシクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
モモ	モモハモグリガ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 7月下旬の被害葉率は平年並	± ±
カキ	うどんこ病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	カキノヘタムシガ	平年並	県全域	第1世代幼虫による被害果率は平年並	±
	コナカイガラムシ類	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	平年並	県全域	7月下旬のヒノキ林における生息頭数は平年並 7月下旬のヒノキ球果量は平年並	± ±

・防除対策

[ナシ・ハダニ類]

スターマイトフロアブルやカネマイトフロアブルなどで防除しましょう。

・留意事項

チャノキイロアザミウマの防除適期は、成虫発生ピークの時期です。下表の成虫発生ピークの予測日を参考に防除しましょう。

表2 有効積算温度を利用したチャノキイロアザミウマ成虫発生ピークの予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第4世代	7/24	7/23	7/19	7/21	7/24	7/25	7/23	7/23	7/28	7/23	第3世代 7/28
第5世代	8/10	8/10	8/5	8/6	8/10	8/11	8/9	8/9	8/14	8/9	第4世代 8/17
(前年)	8/10	8/9	8/5	8/5	8/11	8/11	8/8	8/9	8/17	8/8	(前年) 8/23
前年差	±0	1日遅	±0	1日遅	1日早	±0	1日遅	±0	3日早	1日遅	前年差 6日早
第6世代	8/26	8/27	8/21	8/25	8/28	8/28	8/26	8/28	9/2	8/26	第5世代 9/9

各地のアメダス平均気温から予測（第4世代から第6世代まで）。

8月1日までは実測値を、それ以降は平年値（豊橋、大府は前年値）を用いて計算。

※稲武については、第3世代から第5世代までの予測。前年ピーク日と前年差は第4世代。

果樹カメムシ類のヒノキ林での生息状況や離脱時期の詳細は、本日発表の「果樹カメムシ類情報第3号」を参考にしてください。

## 野菜

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 8月の気温は高い	+
	シロイチモジ ヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 8月の気温は高い	+
イチゴ	炭疽病	多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い 8月の気温は高い 8月の降水量はほぼ平年並	+
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
				8月の気温は高い	+

### ・防除対策

#### [キャベツ・オオタバコガ]

本日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

#### [キャベツ・シロイチモジヨトウ]

定植後、幼虫を確認したら直ちにコテツフロアブルやヨーバルフロアブルなどで防除しましょう。

#### [イチゴ・炭疽病]

本日発表の「令和4年度病害虫発生予察注意報第4号」を参考にしてください。

#### [野菜共通・ハスモンヨトウ]

中齢以降の幼虫は、薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、分散前の若齢幼虫期に防除しましょう。

キャベツでは、セルトレイ育苗時はヨーバルフロアブルなどのかん注処理、定植後はマッチ乳剤やディアナSCなどで防除しましょう。

### ・留意事項

キャベツの**コナガ**は、フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い状況なので、今秋作の育苗においては特に注意が必要です。ほ場をよく観察し、早期発見、早期防除に努めましょう。また、**ハイマダラノメイガ**は、今後、発生に好適な気象条件が見込まれるため、注意が必要です。育苗期には防虫ネットなどで覆い、成虫の侵入を防ぐとともに、薬剤防除を徹底しましょう。

トマトでは、**コナジラミ類**の発生が増加する時期です。タバココナジラミはトマト黄化葉巻病（病原ウイルス：TYLCV）、コナジラミ類はトマト黄化病（病原ウイルス：ToCV）を媒介します。これらウイルス病の感染を防ぐため、育苗時、定植時にはコナジラミ類が寄生していないか確かめるとともに、コナジラミ類に効果のある薬剤を施用しましょう。また、侵入防止対策として、施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm 以下）を設置しましょう。

イチゴの育苗ほでの**ハダニ類**の発生は平年並ですが、ほ場による差が大きく、発生の多いほ場も見られます。今後、発生に好適な気象条件が見込まれるため、注意が必要です。育苗ほでは、気門封鎖型農薬などを組み合わせて防除しましょう。本ほにハダニ

類を持ち込まないために、必ず定植直前に防除を徹底しましょう。炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤）をした場合、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

## 花き

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並 8月の気温は高い	± +
	ハダニ類	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±

### ・防除対策

#### [キク (露地) ・ オオタバコガ]

本日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：

<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

### 東海地方 1か月予報（名古屋地方气象台7月28日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は高い確率50%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：30% 高い：60%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%